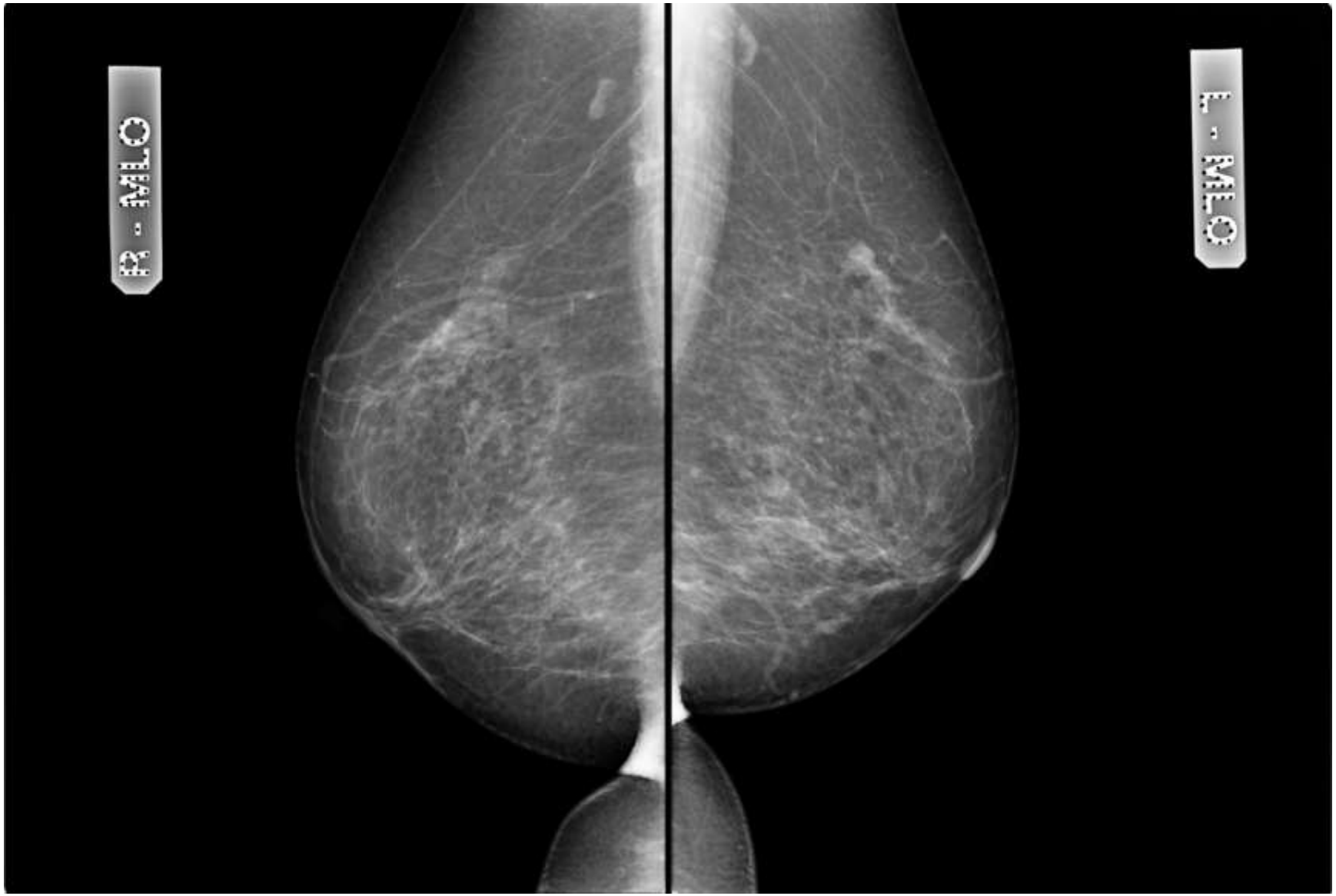
# H29年11月症例検討会

熊本総合病院　病理診断科　寺園

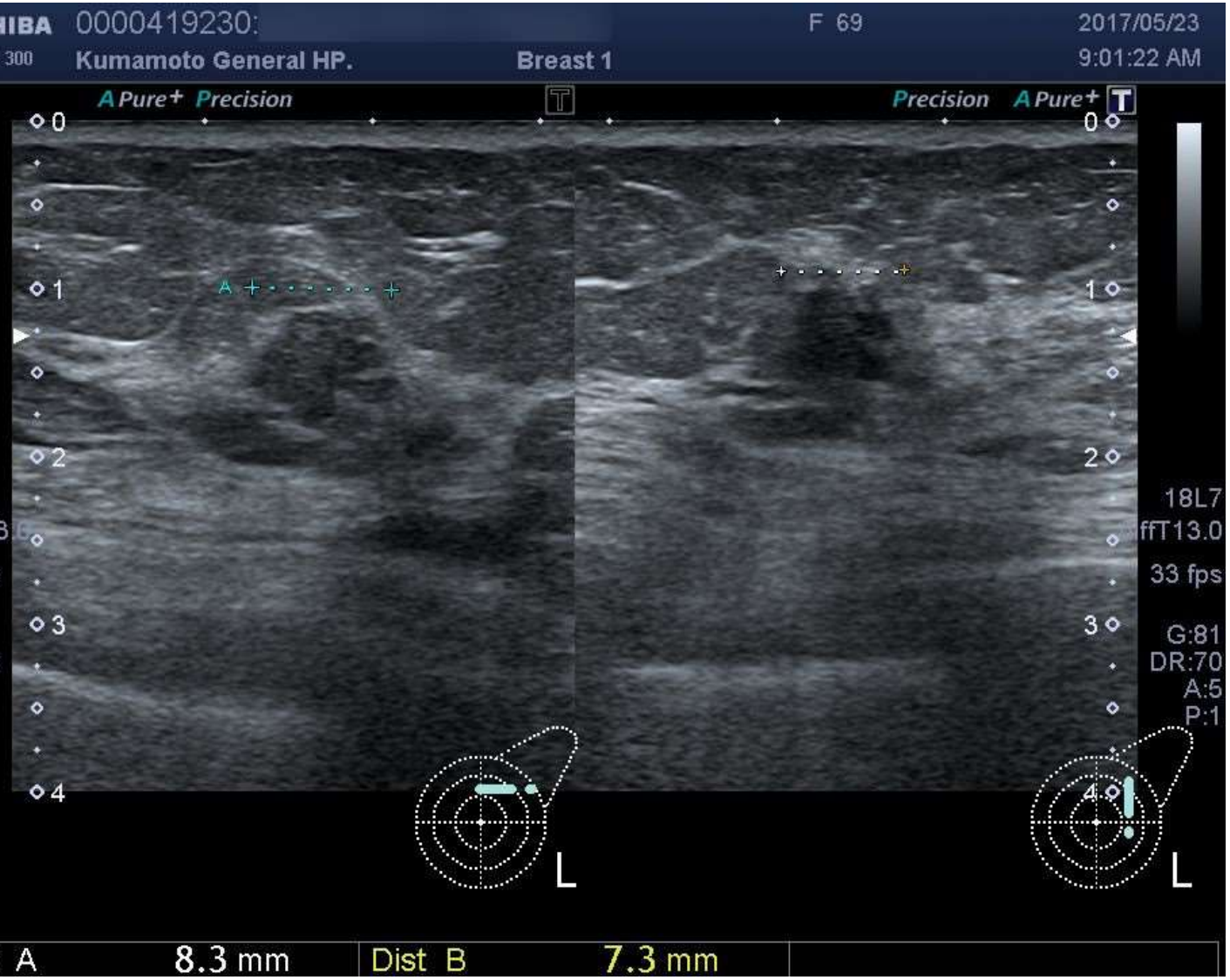
# 症例

- 患者：50歳代　女性
- 現病歴：検診MMGにて左上部にC3の判定で受診
  US上では左乳房C領域に8.3×7.3mmの腫瘤を認め、悪性も疑われるため穿刺吸引細胞診を施行した。
- 採取部位：左乳房
- 採取法：穿刺吸引細胞診

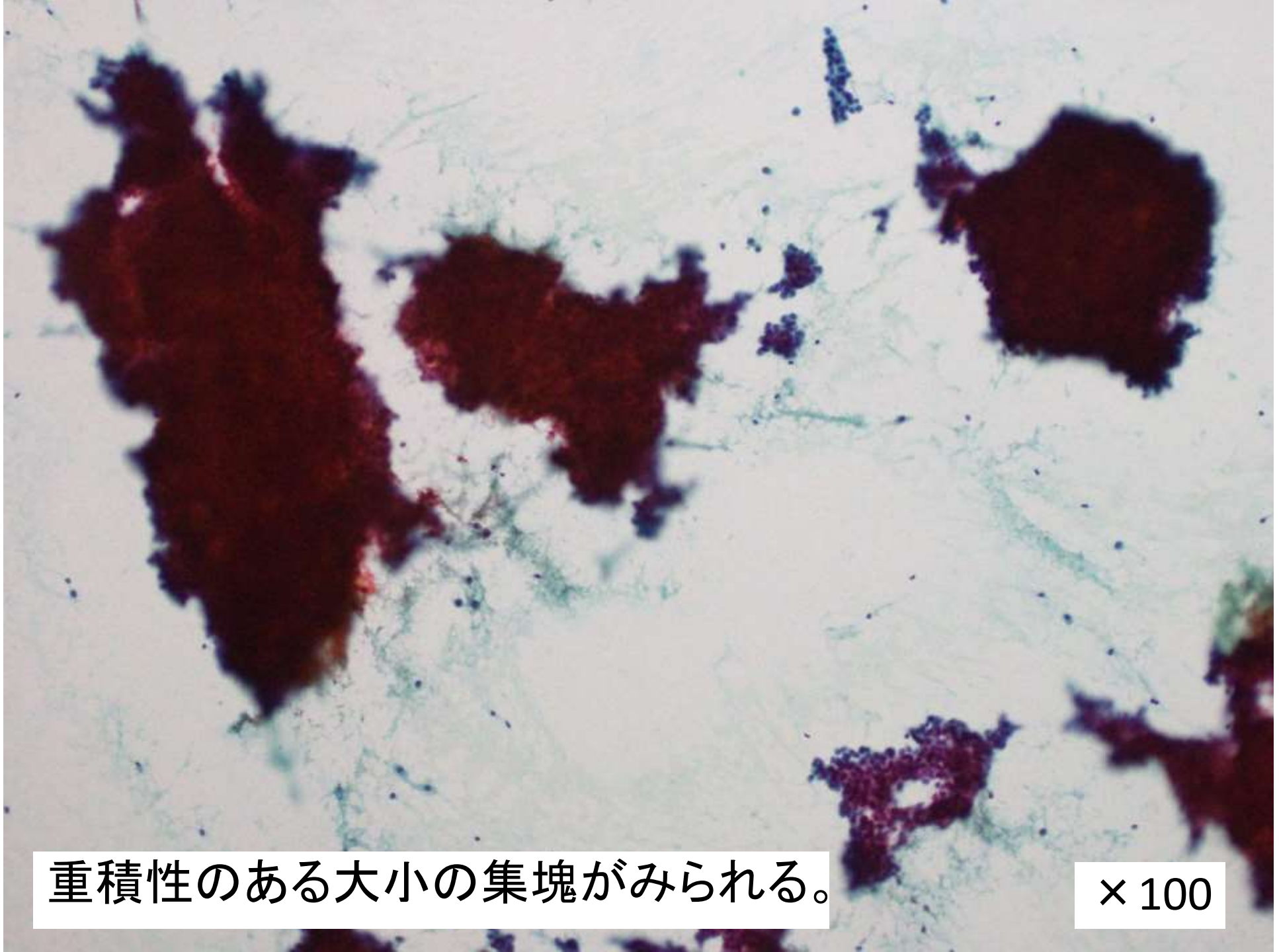
# 画像検査

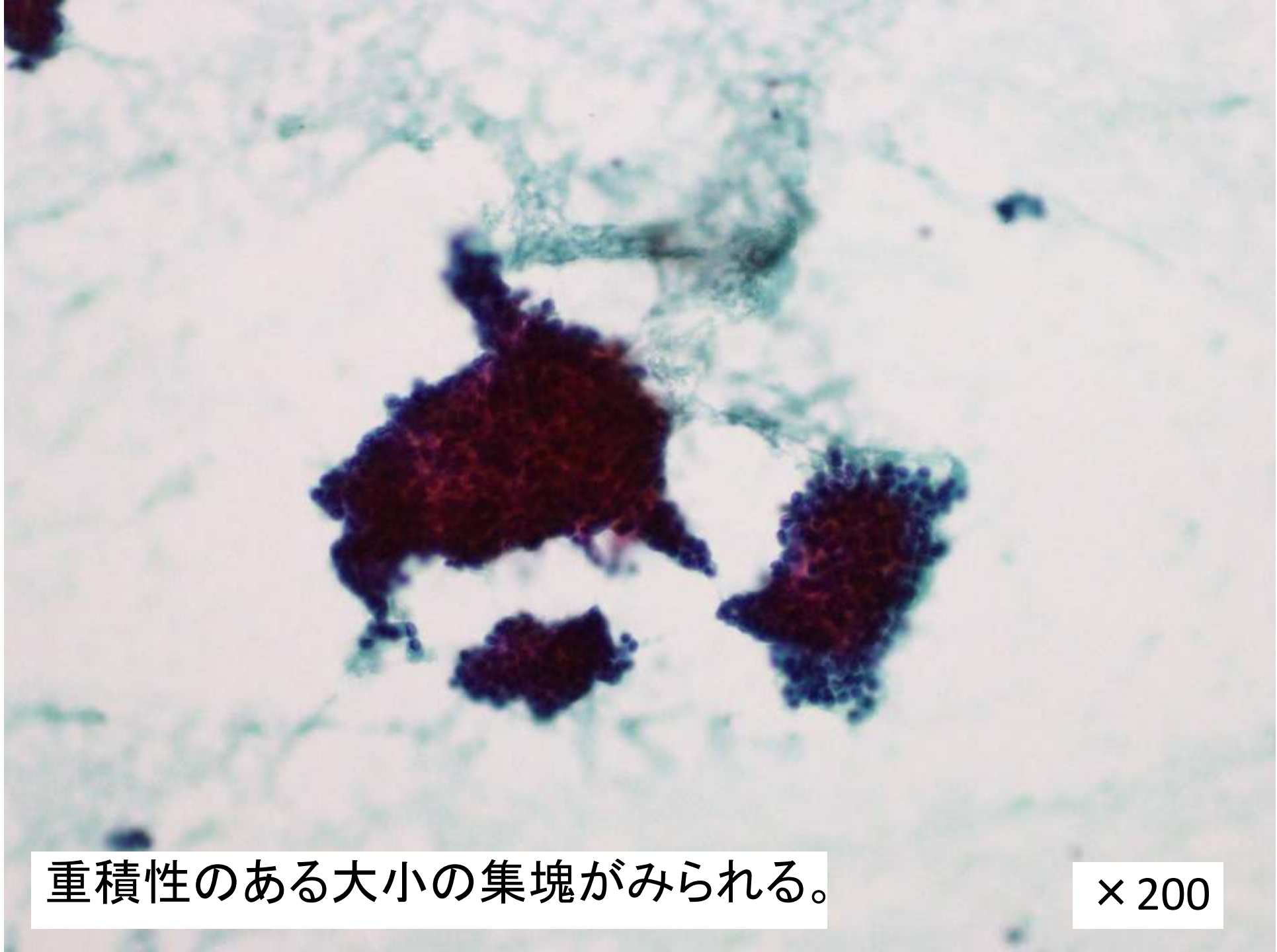


# 画像検査：8.3×7.3mmの辺縁不整の腫瘤



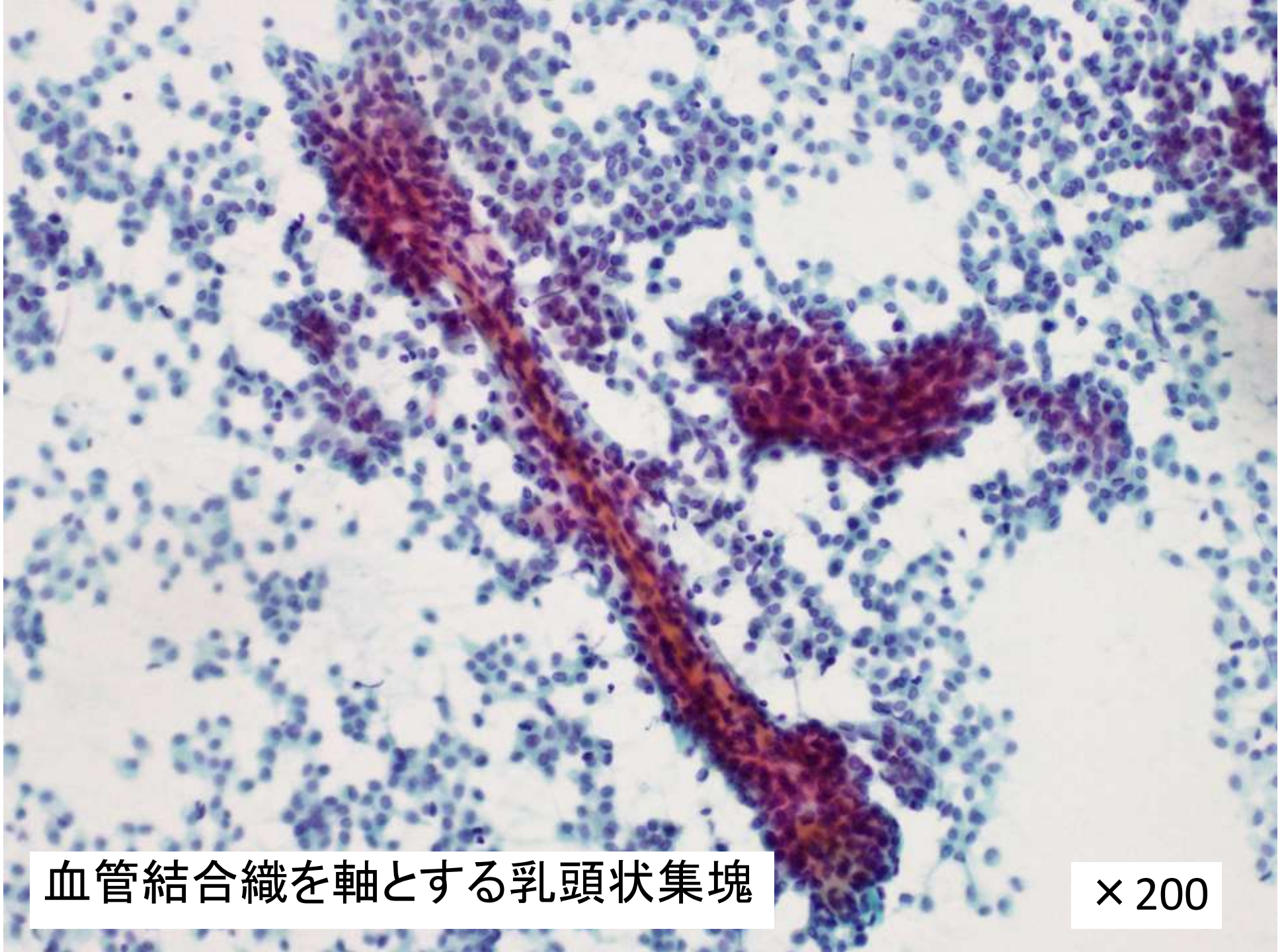


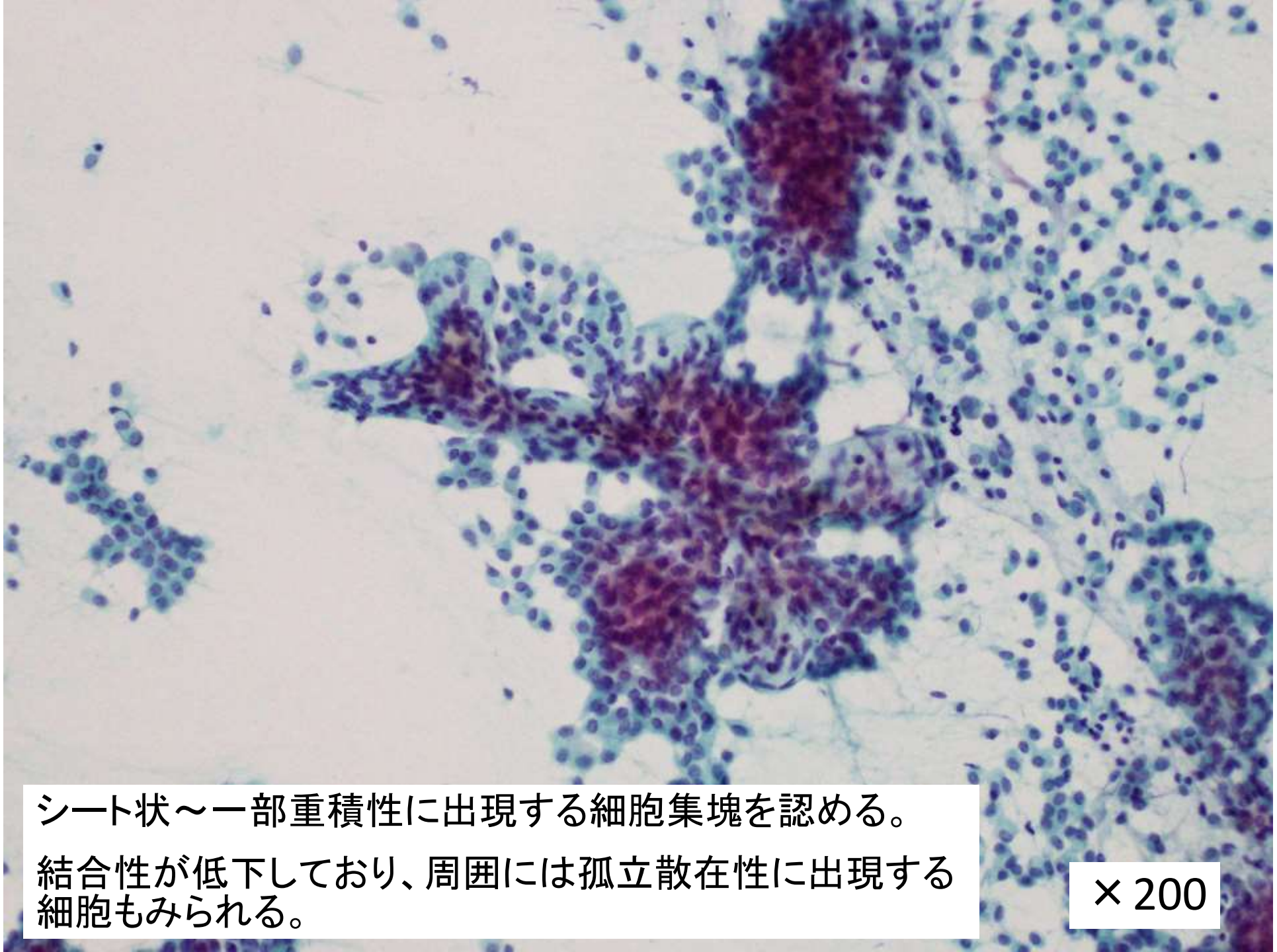


重積性のある大小の集塊がみられる。
×100



重積性のある大小の集塊がみられる。

×200

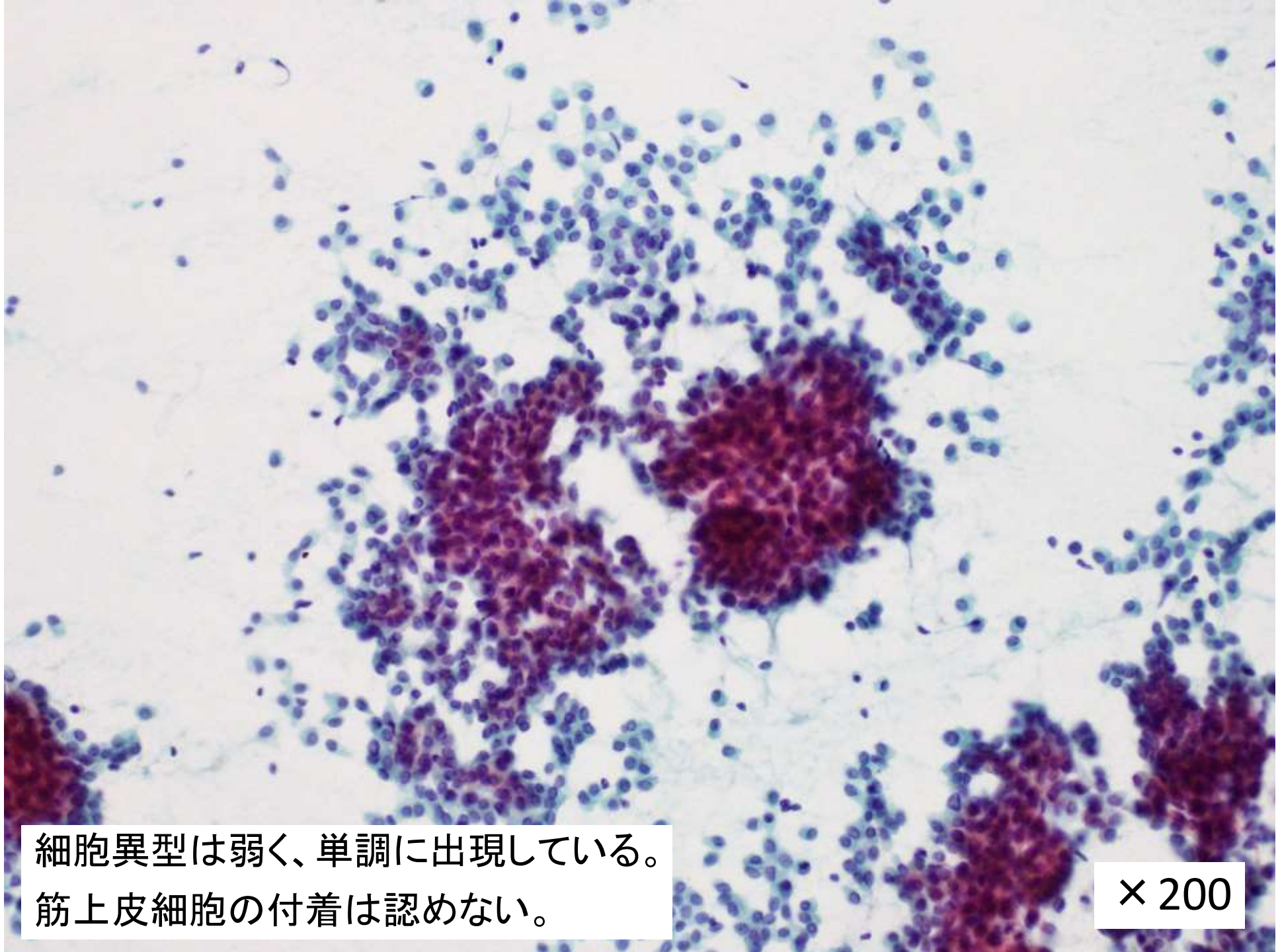

血管結合織を軸とする乳頭状集塊
×200

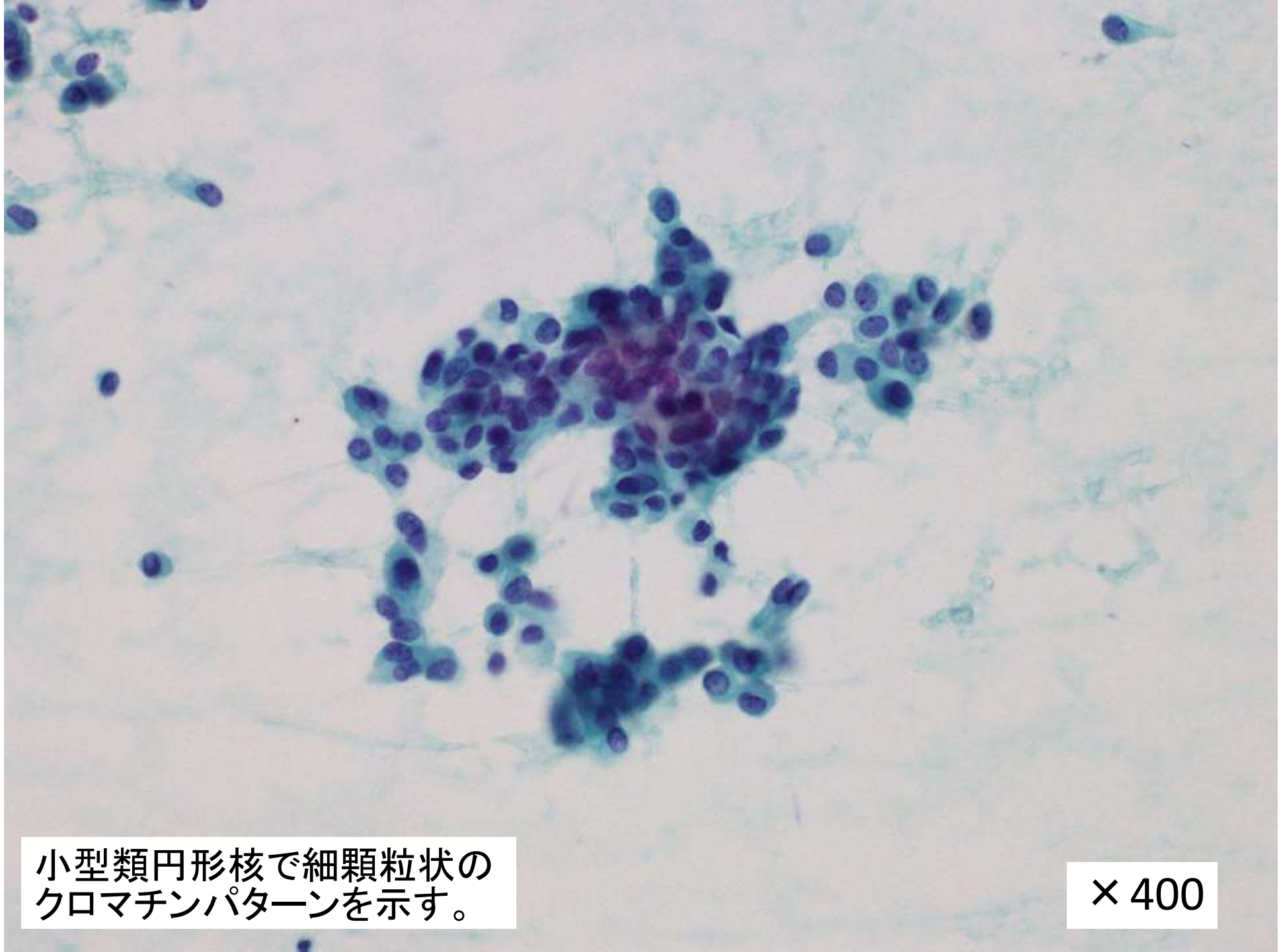


シート状～一部重積性に出現する細胞集塊を認める。

結合性が低下しており、周囲には孤立散在性に出現する細胞もみられる。

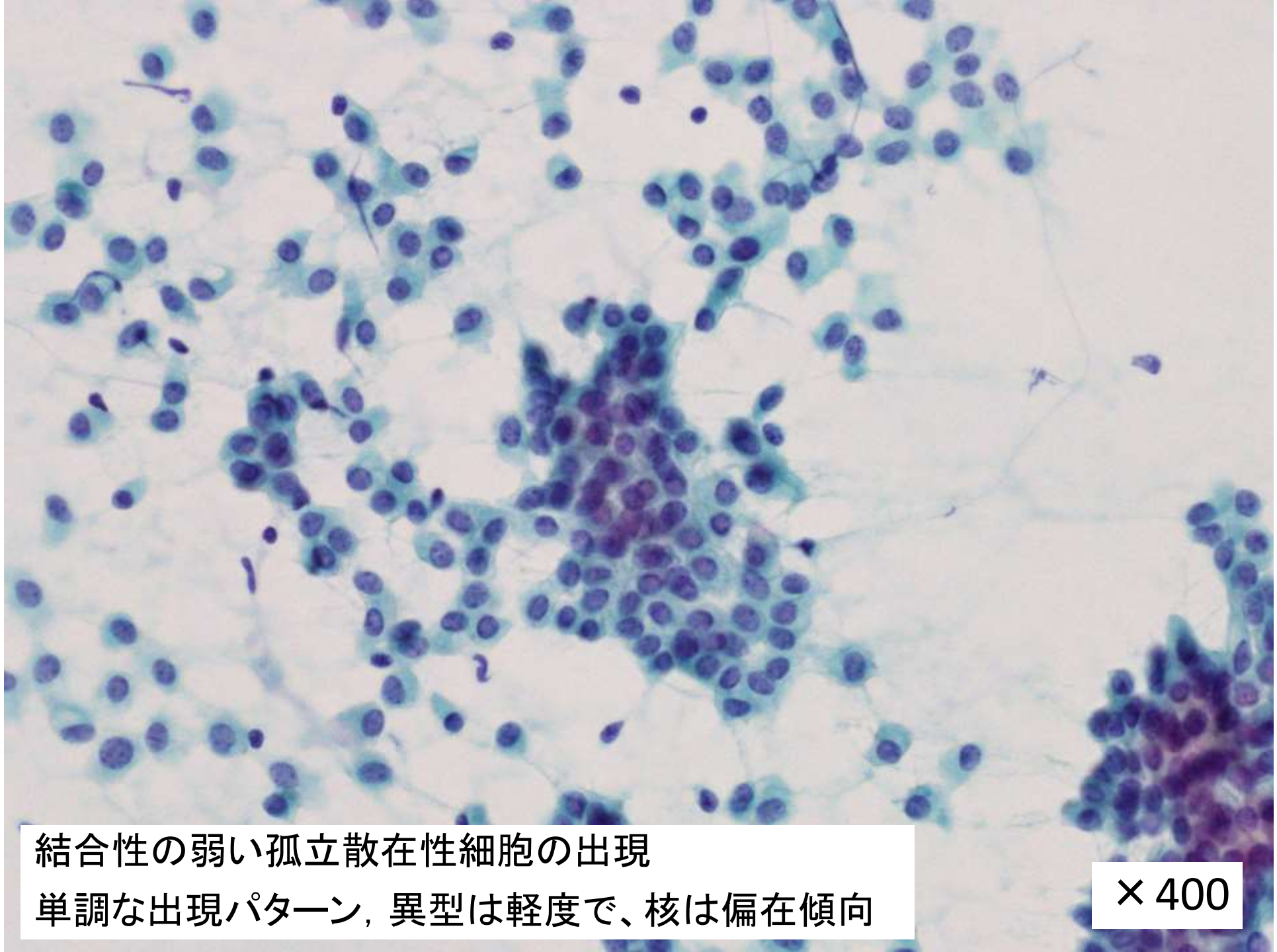
×200


細胞異型は弱く、単調に出現している。
筋上皮細胞の付着は認めない。
×200



小型類円形核で細顆粒状の
クロマチンパターンを示す。

×400



結合性の弱い孤立散在性細胞の出現

単調な出現パターン，異型は軽度で、核は偏在傾向

×400

# <細胞診>

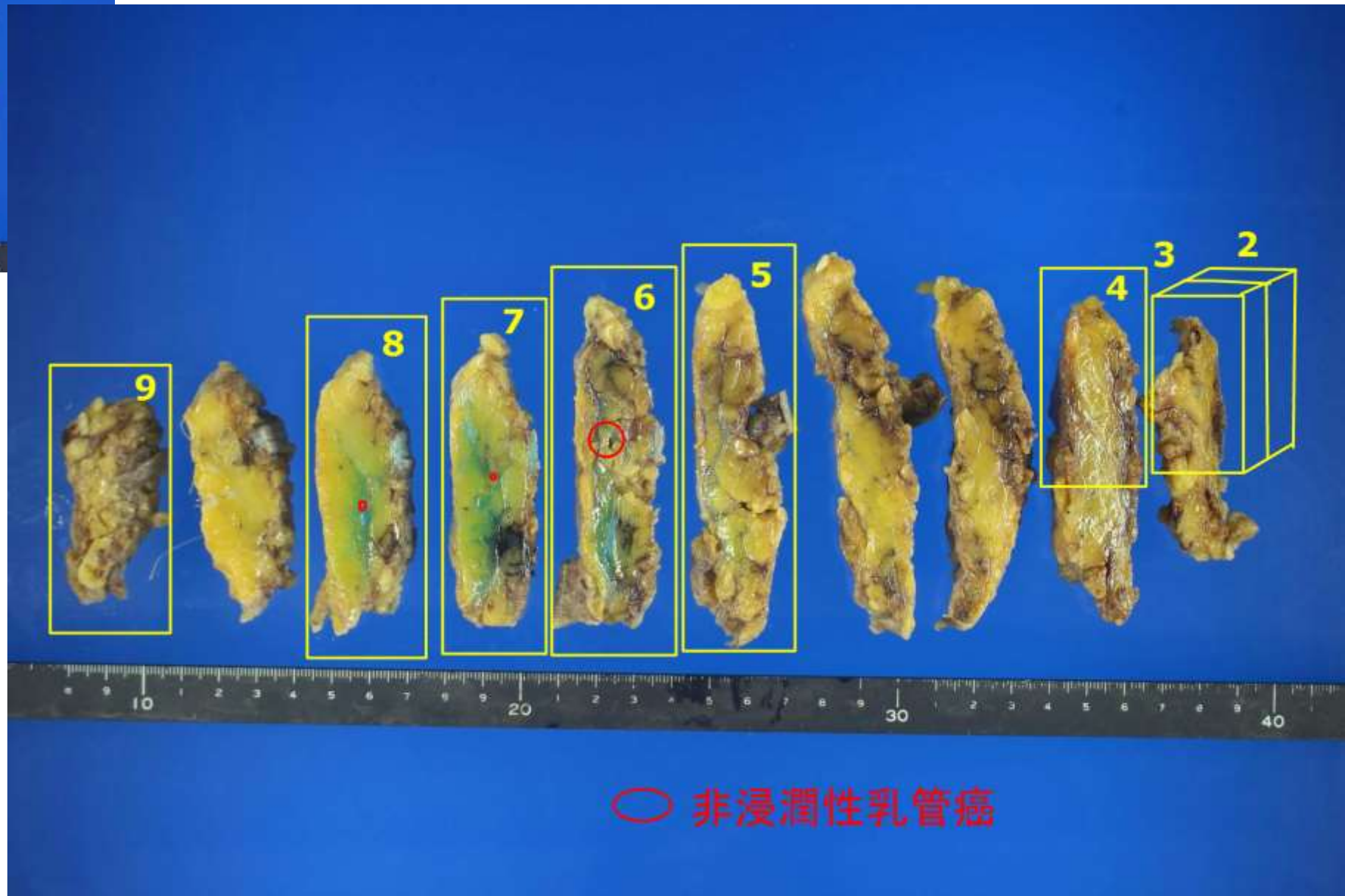
判定：陽性

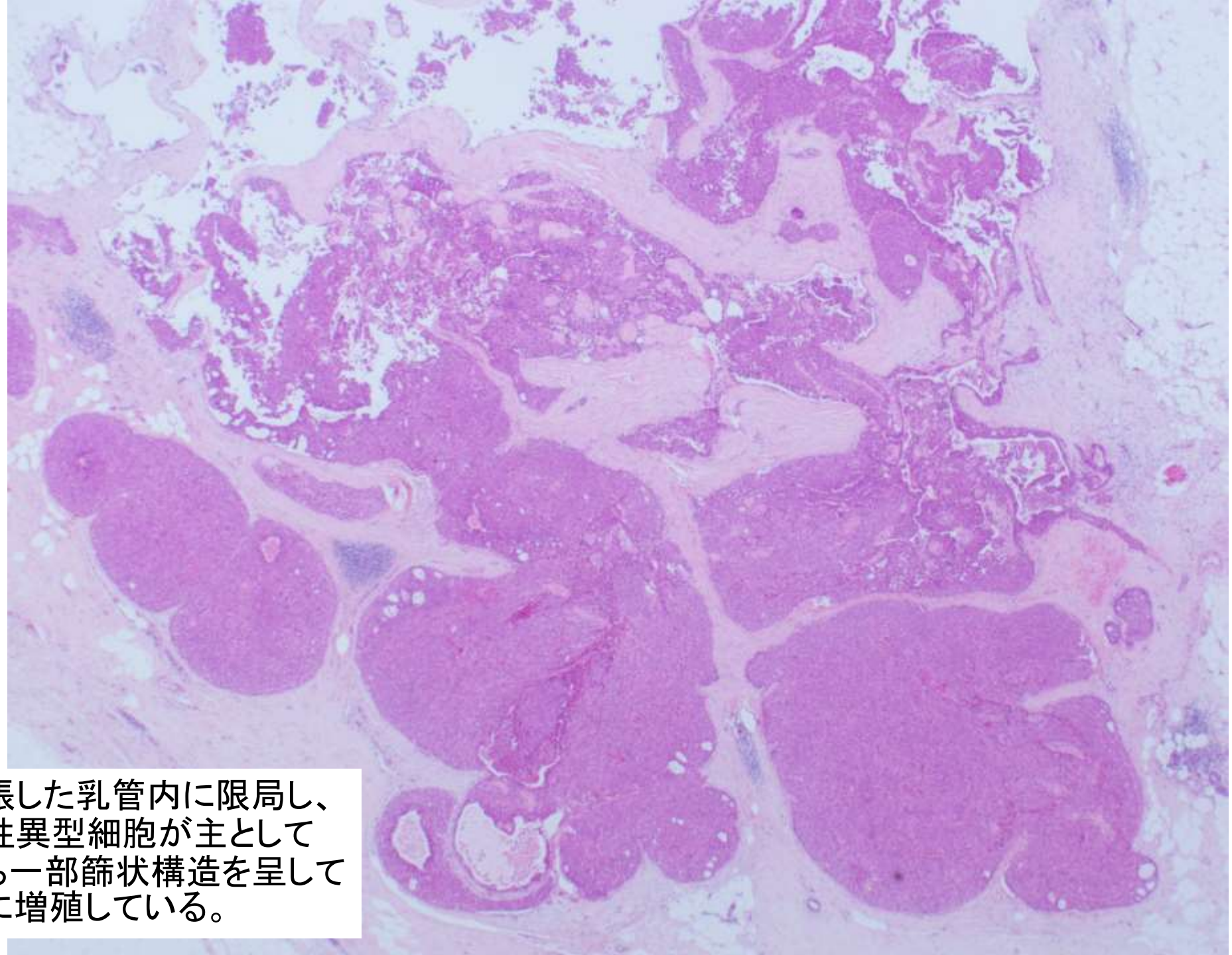
診断：Adenocarcinoma,

papillotubular～solidtubular carcinoma susp.

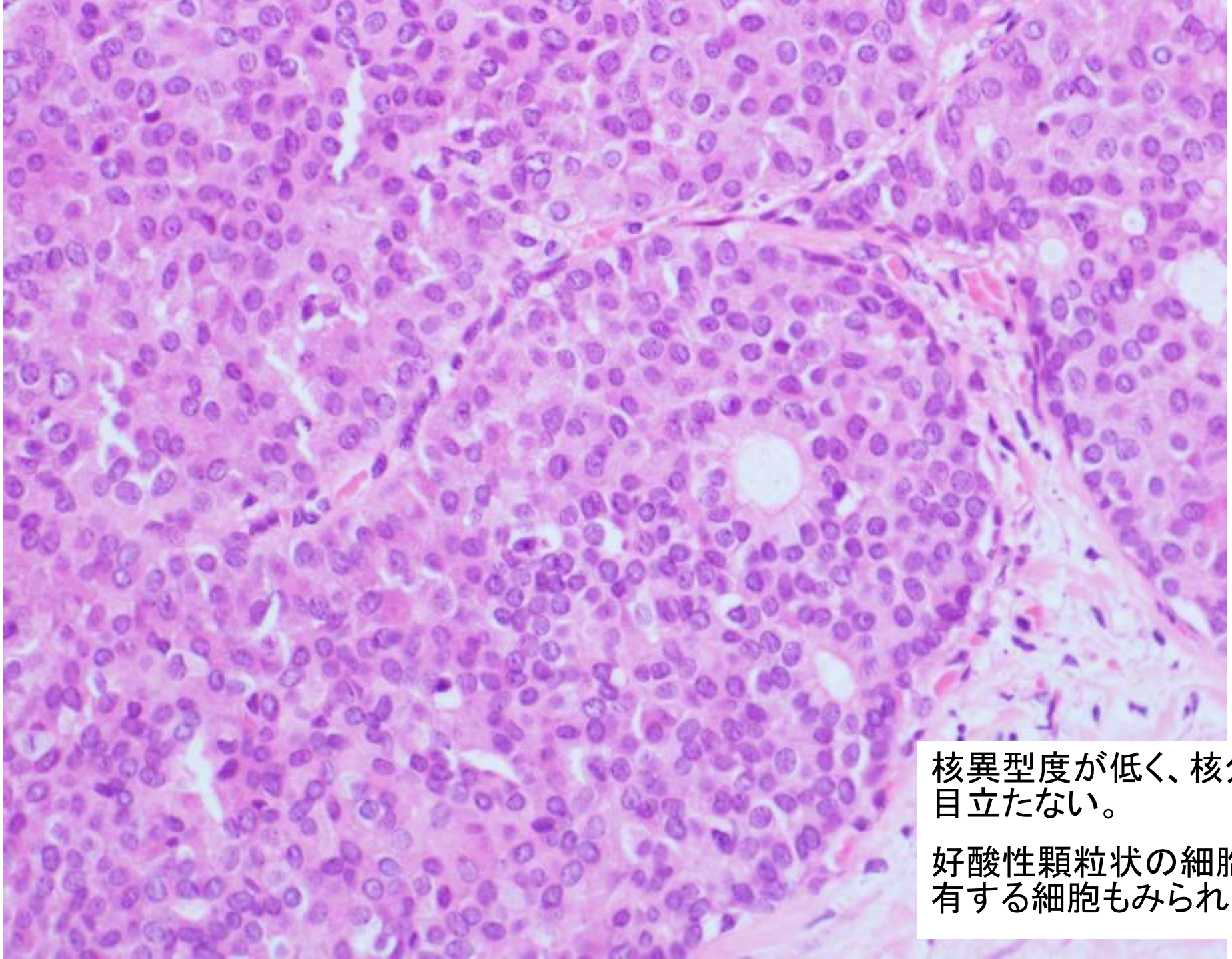
# 病理組織





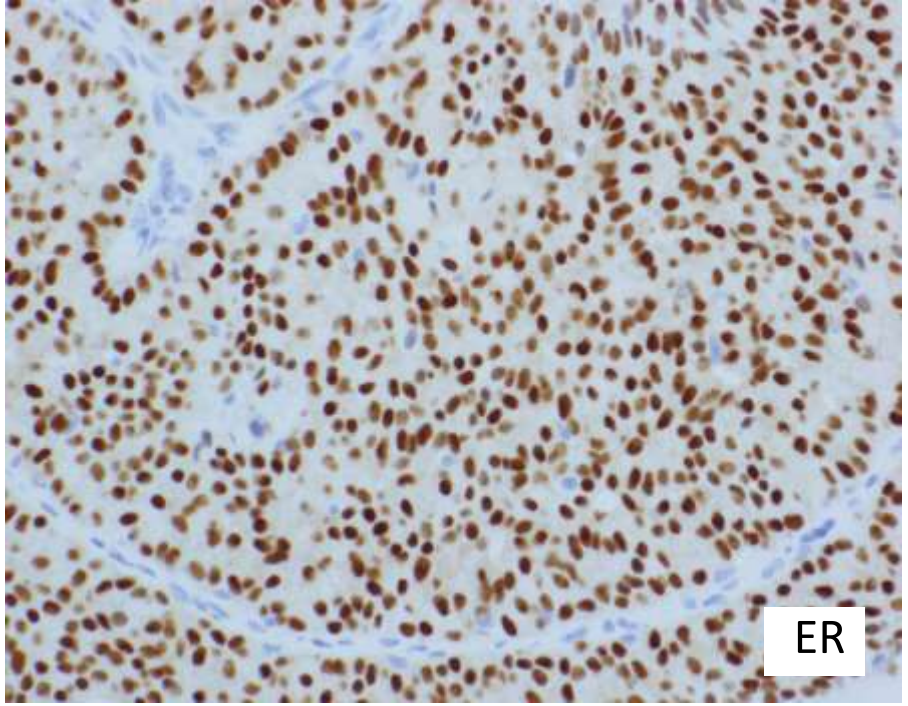


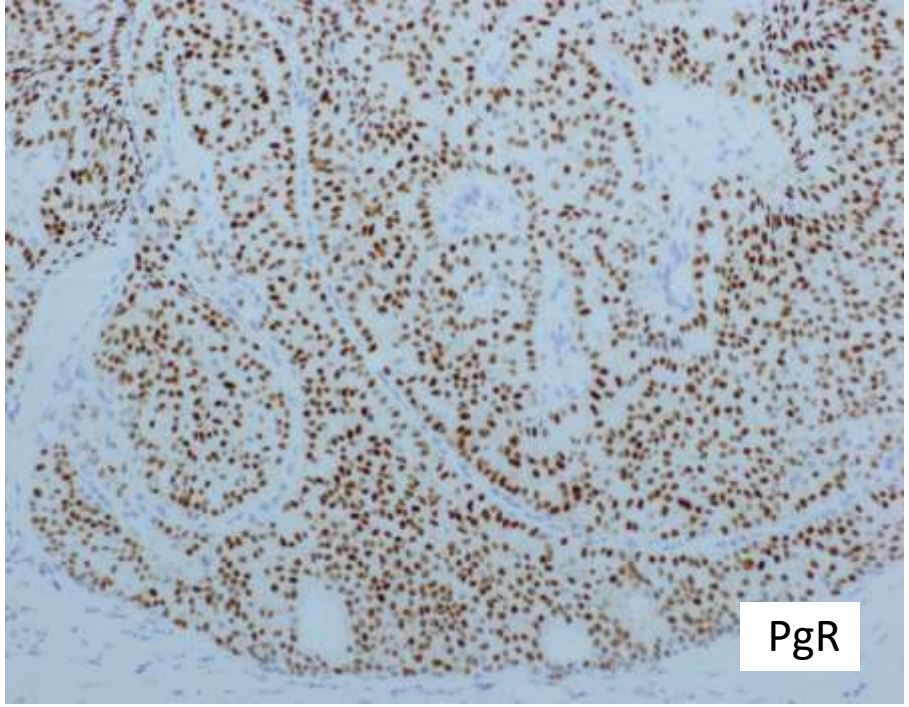
大小の拡張した乳管内に限局し、
乳管上皮性異型細胞が主として
充実性から一部篩状構造を呈して
多結節性に増殖している。

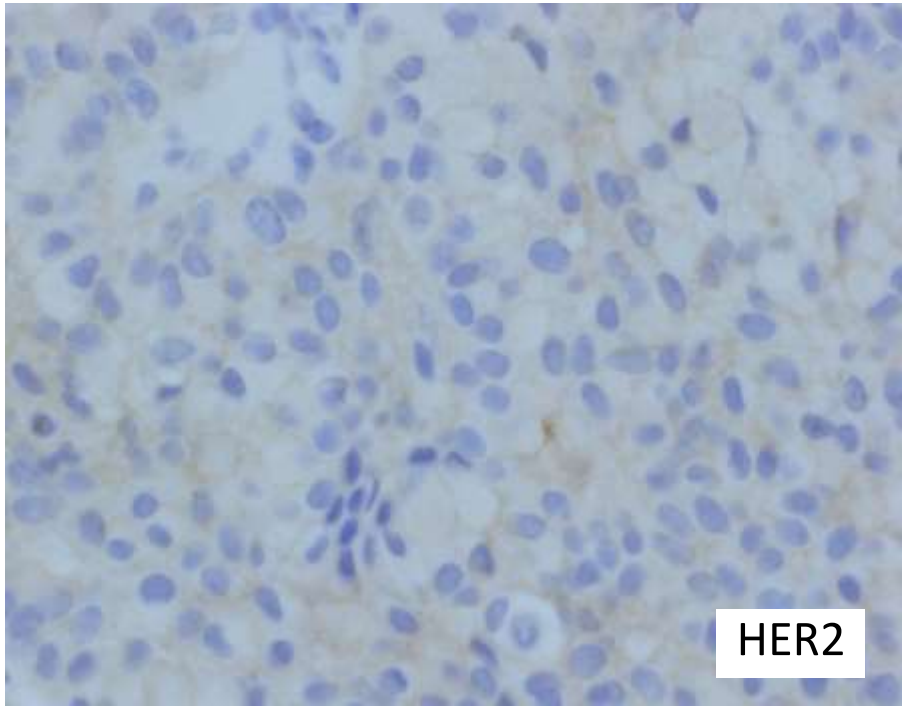


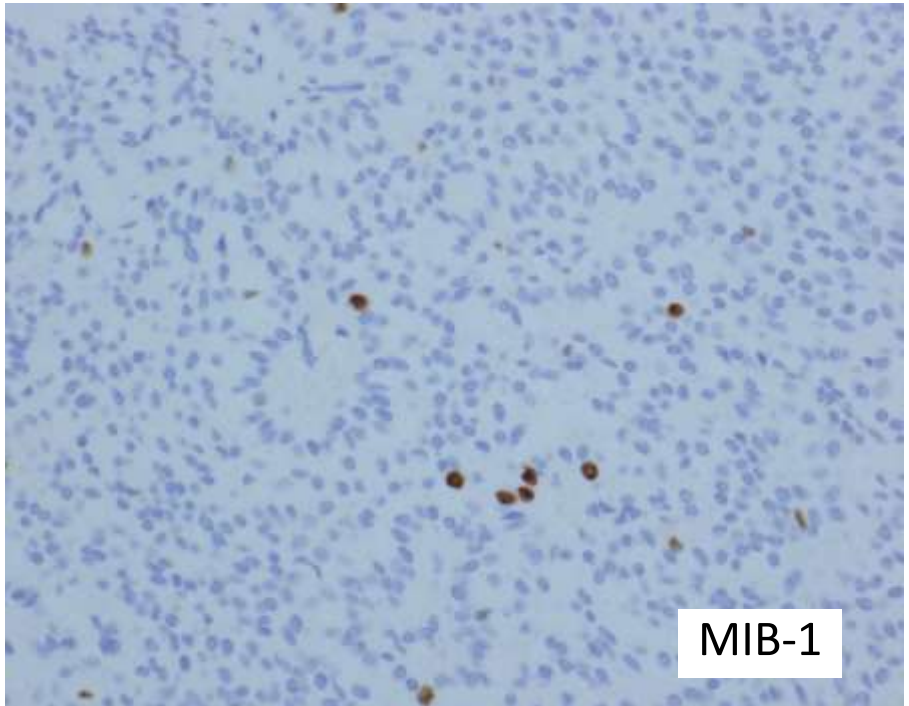
核異型度が低く、核分裂像も
目立たない。

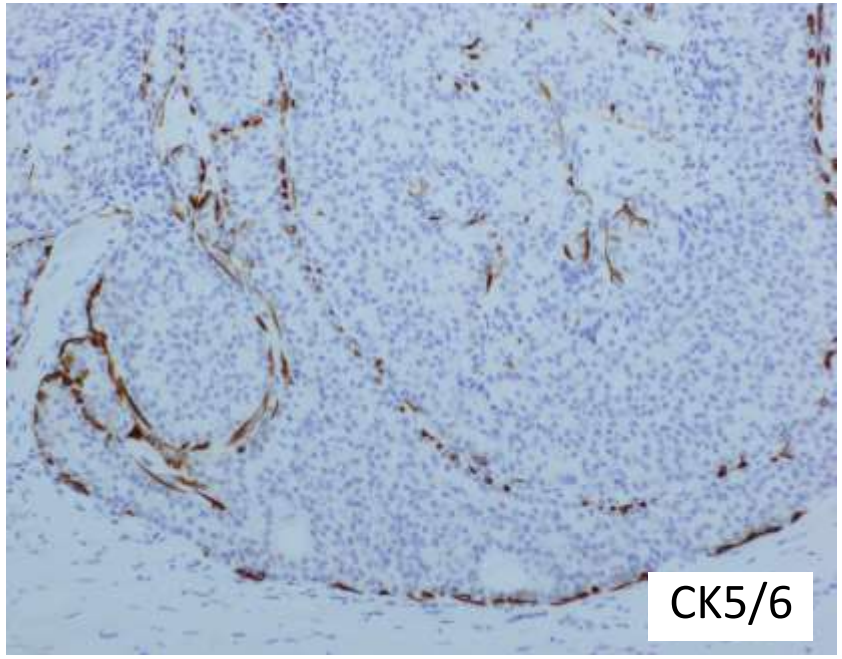
好酸性顆粒状の細胞質を
有する細胞もみられる。

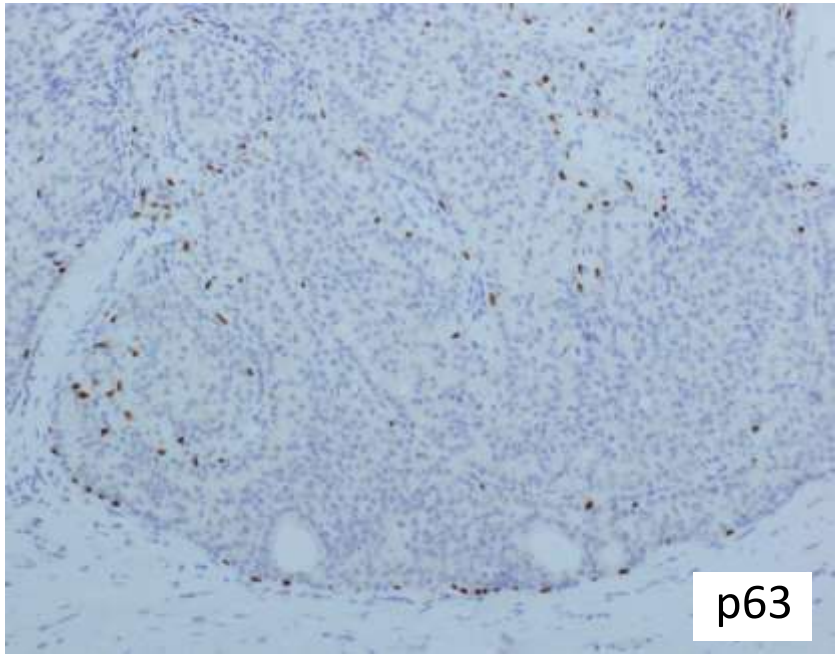

ER

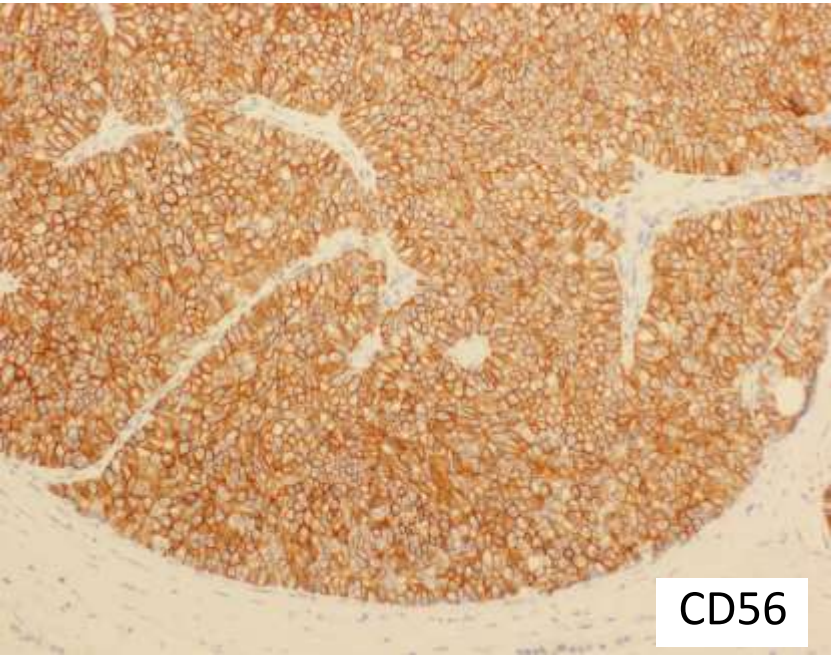

PgR

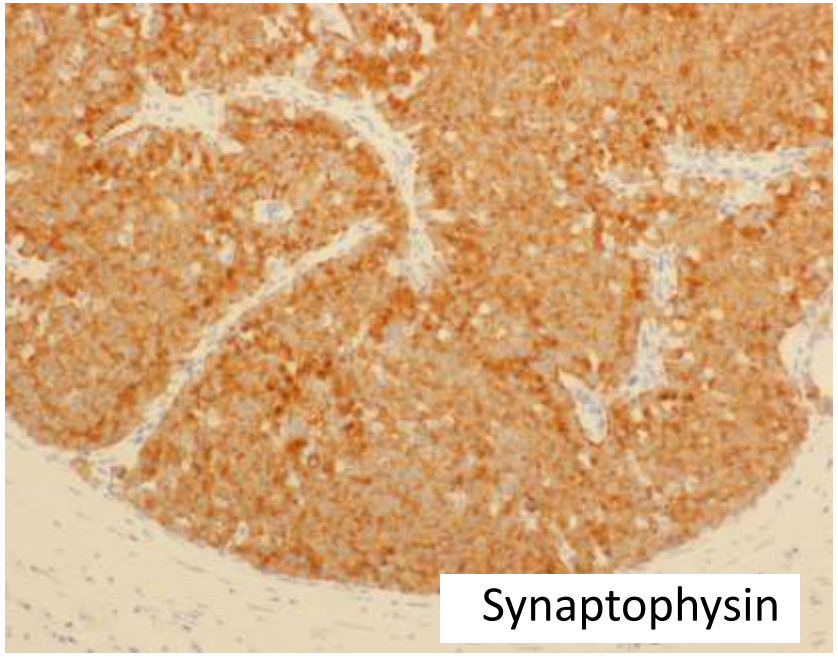

HER2

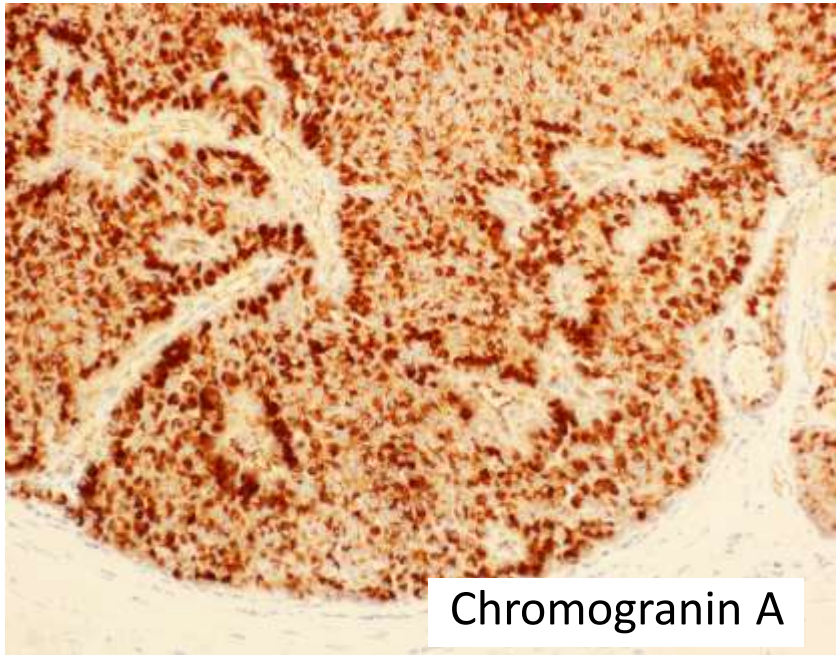

MIB-1


CK5/6


p63


CD56


Synaptophysin


Chromogranin A

# 最終病理診断

lt-Breast tumor, partial mastectomy :

Non-invasive ductal carcinoma, pTis, pN0, cM0,
M0であればpStage 0

非浸潤性乳管癌細胞の胞体が好酸性顆粒状を呈しており、
確認のため神経内分泌マーカーの免疫染色を再度追加し、
検討した。
Synaptophysin, Chromogranin A, CD56 : いずれも強陽性
非浸潤性乳管癌の組織亜型 :
Solid papillary carcinoma in situ (Endocrine DCIS) に分類される。

# ＜解答＞

①乳管内乳頭腫
②乳頭腺管癌
③充実腺管癌
④硬癌
⑤髄様癌
⑥充実乳頭癌（Solid papillary carcinoma）
⑦アポクリン癌

# Solid papillary carcinoma(SPC，充実乳頭癌)とは

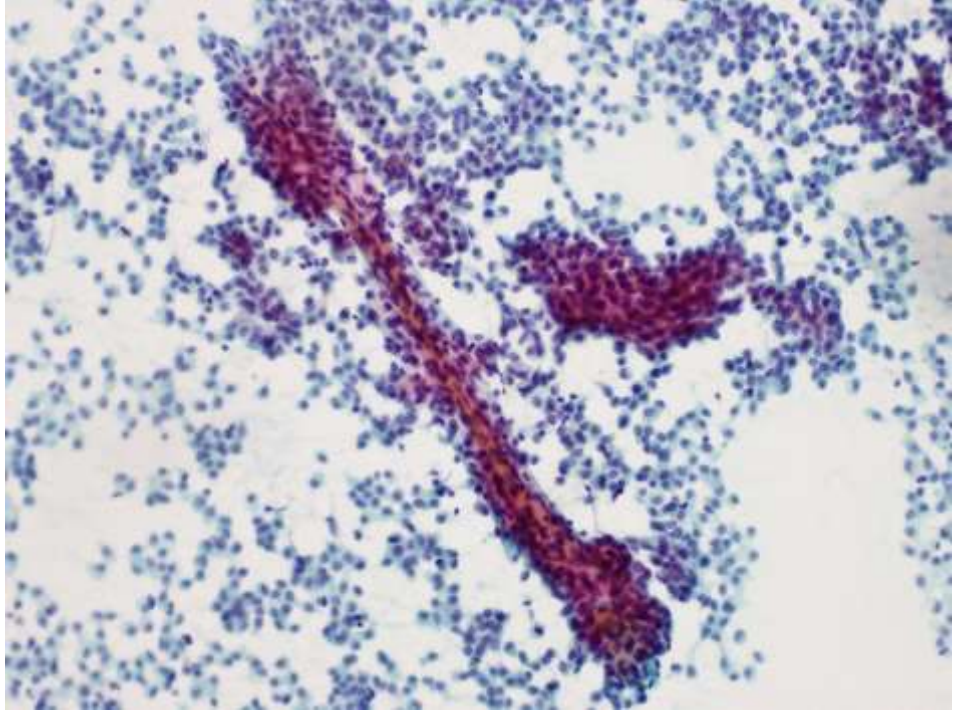
- 充実性乳頭状の発育形式を示すDCISの特殊亜型で、WHO第4版ではIntraductal papillary lesions(乳頭状病変)のカテゴリーの中に独立した分類として記載されている。
- 発生頻度は全乳癌の1%以下で、ほとんどが閉経後である。
- 特徴的所見として、Chromogranin A, Synaptophisinなどの神経内分泌マーカーが陽性を示す。
- SPCにはしばしば粘液産生がみられ、SPCの一部は粘液癌の前駆病変とも考えられている。
- 臨床病理学的特徴は、主訴の多くが血性乳頭分泌であること、予後良好であることが挙げられる。

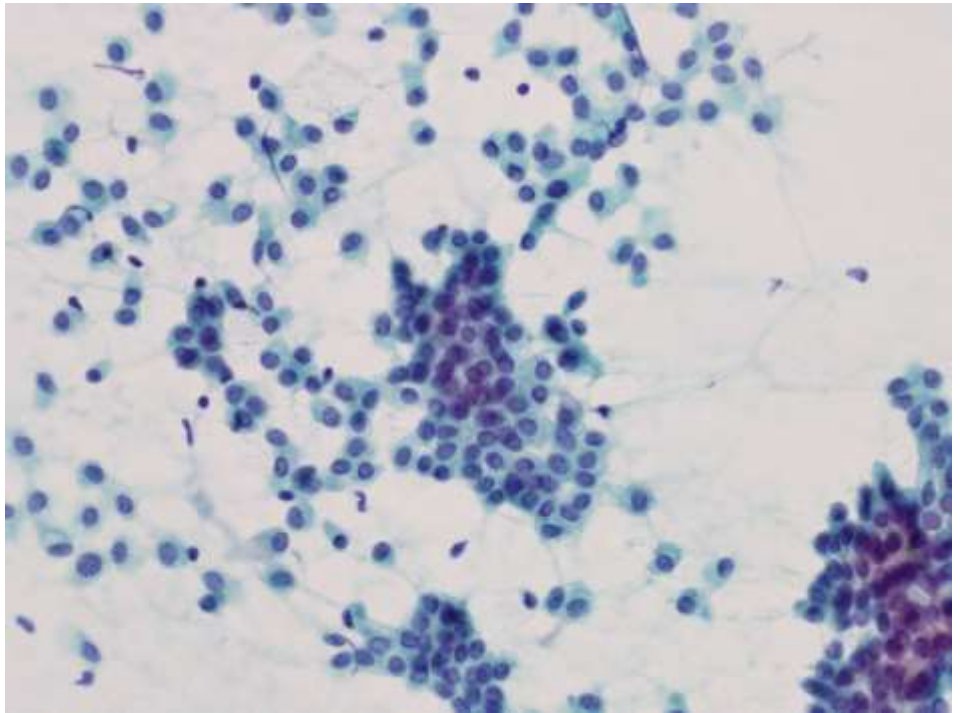
# SPCの組織学的特徴

・乳管内での乳頭状，充実性の増殖
・血管周囲の偽ロゼット状配列
・細胞質内外の粘液産生
・核が偏在した形質細胞様形態
・好酸性，細顆粒状の細胞質
・CGA等の神経内分泌系マーカーが陽性
・壊死は少なく、核異型は比較的軽度
・時に浸潤を伴う

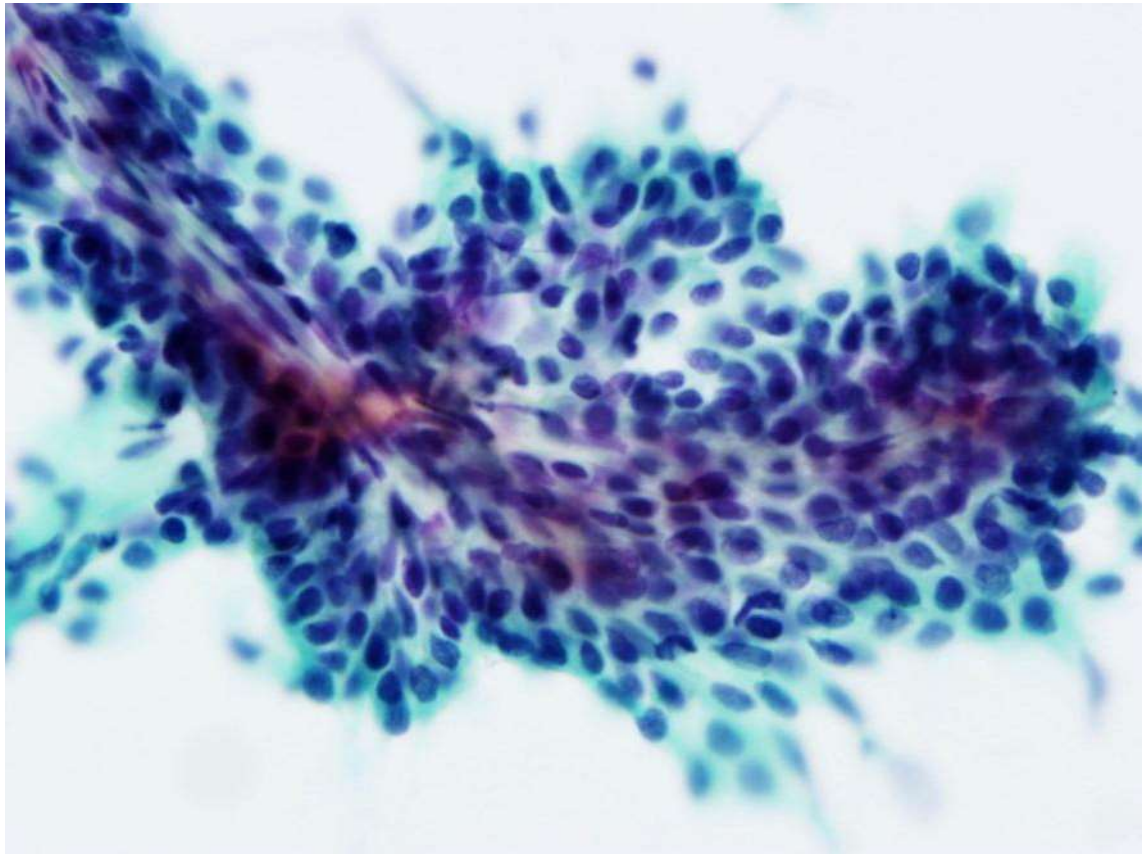
# 症例の再検討

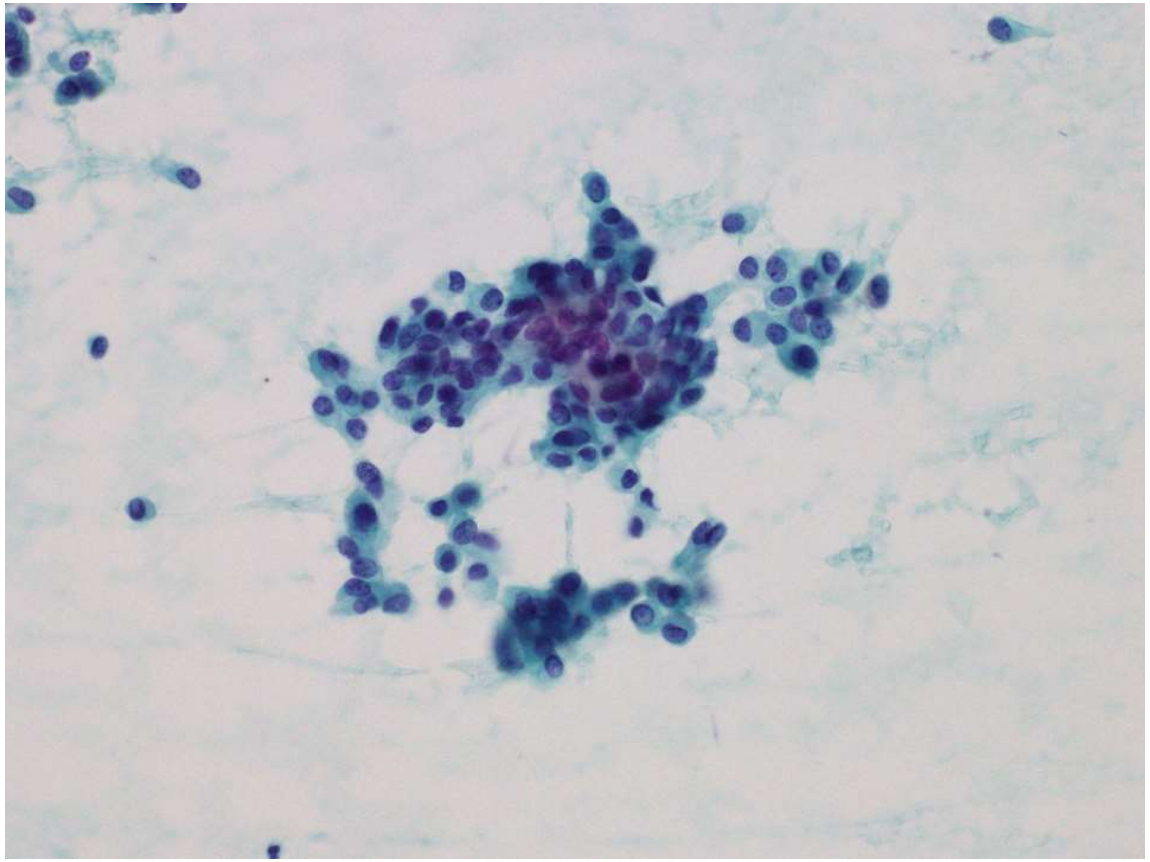
- 大小の不規則重積性集塊
- 結合性の弱い孤立散在性細胞の出現
- 血管結合織を軸とする乳頭状集塊
- 筋上皮の付着はない
- 単調な出現パターン
- 異型は軽度で、核偏在傾向（Plasmacytoid）
- 好酸性顆粒状細胞質



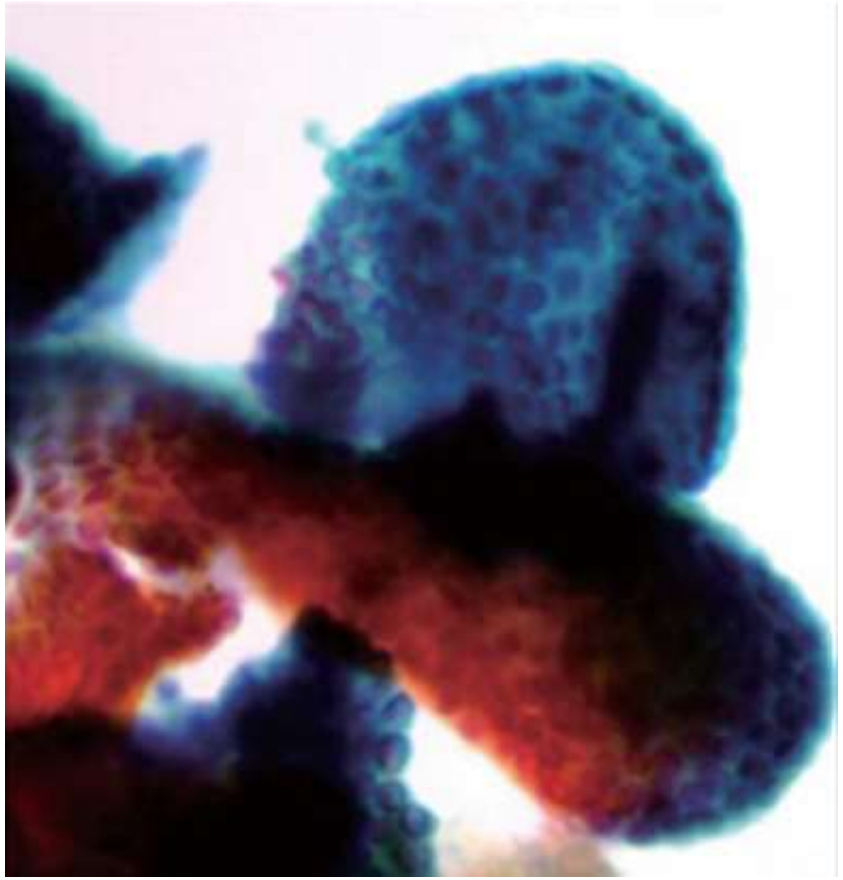


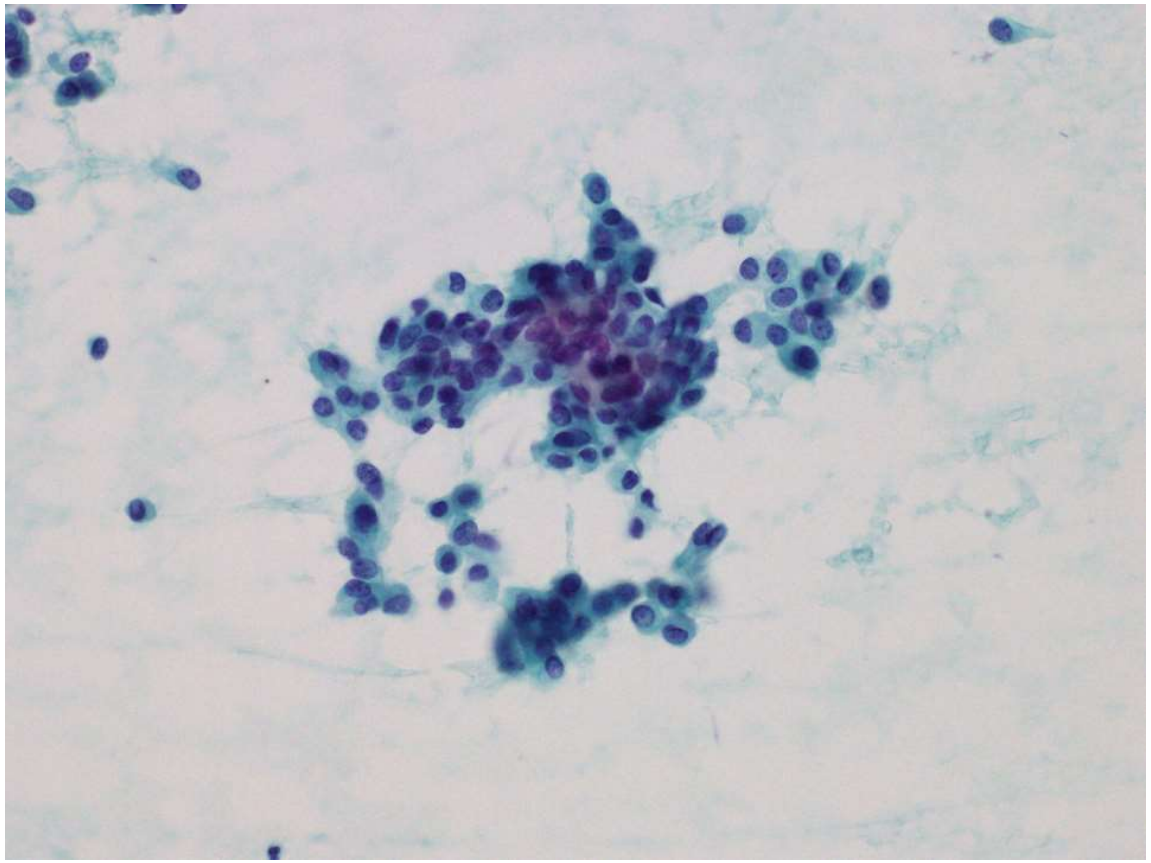
# 他の選択肢との鑑別



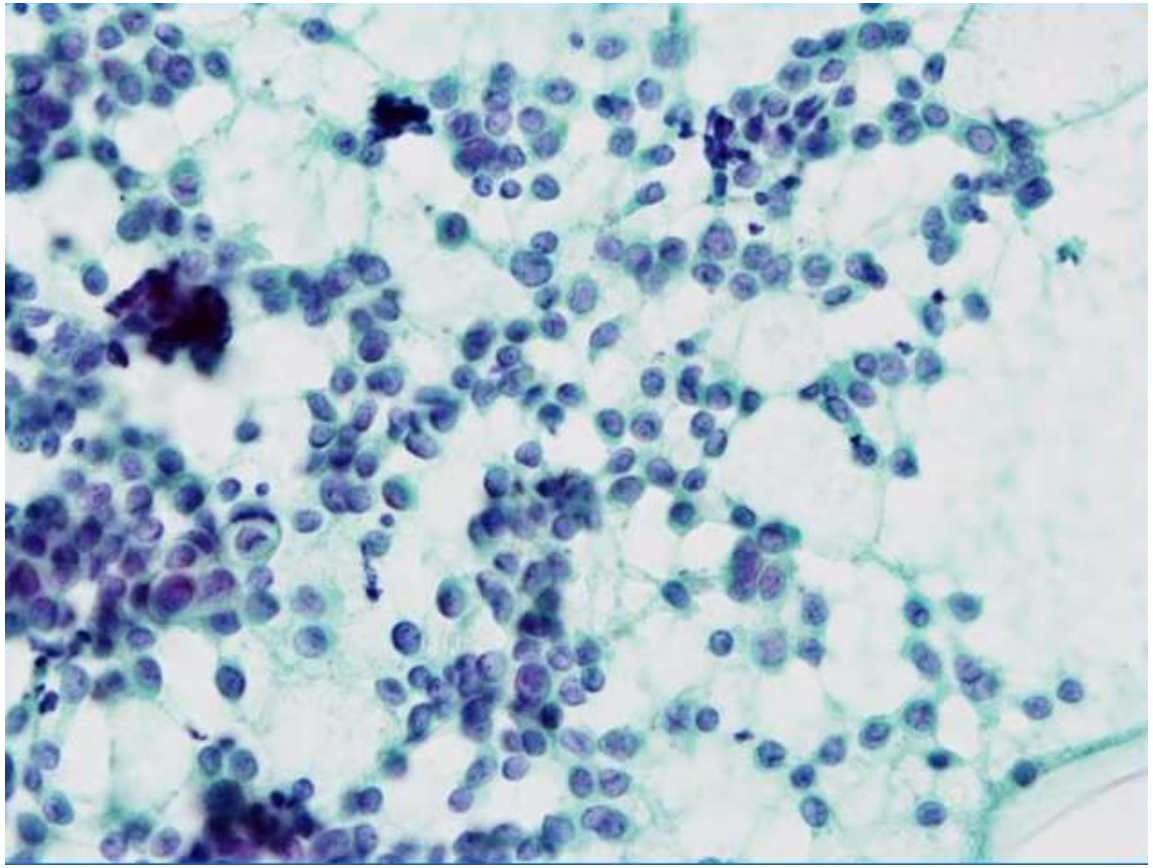


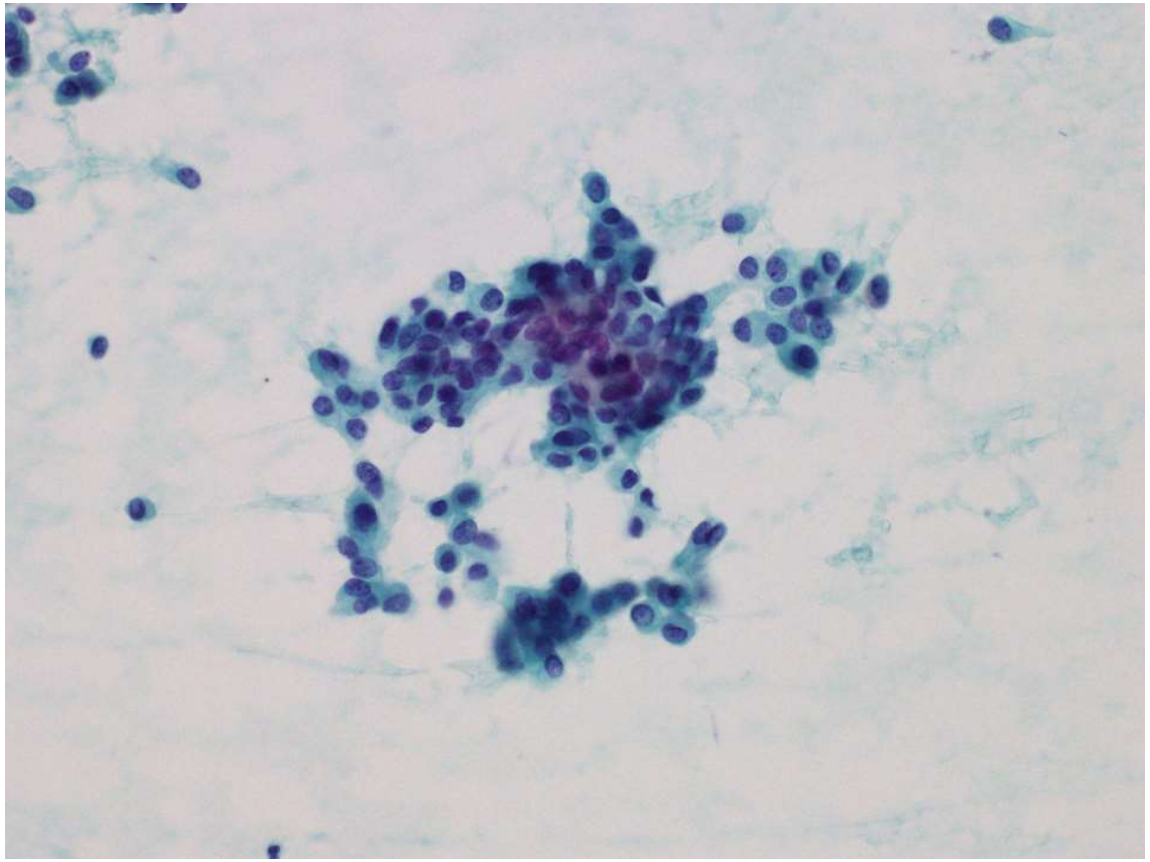
| 乳管内乳頭腫 | | SPC |
|---|---|---|
| あり | 筋上皮細胞 | なし |
| なし | 細胞質の好酸性顆粒 | あり |
| クロマチン増量なし | クロマチン | 細顆粒状クロマチン |



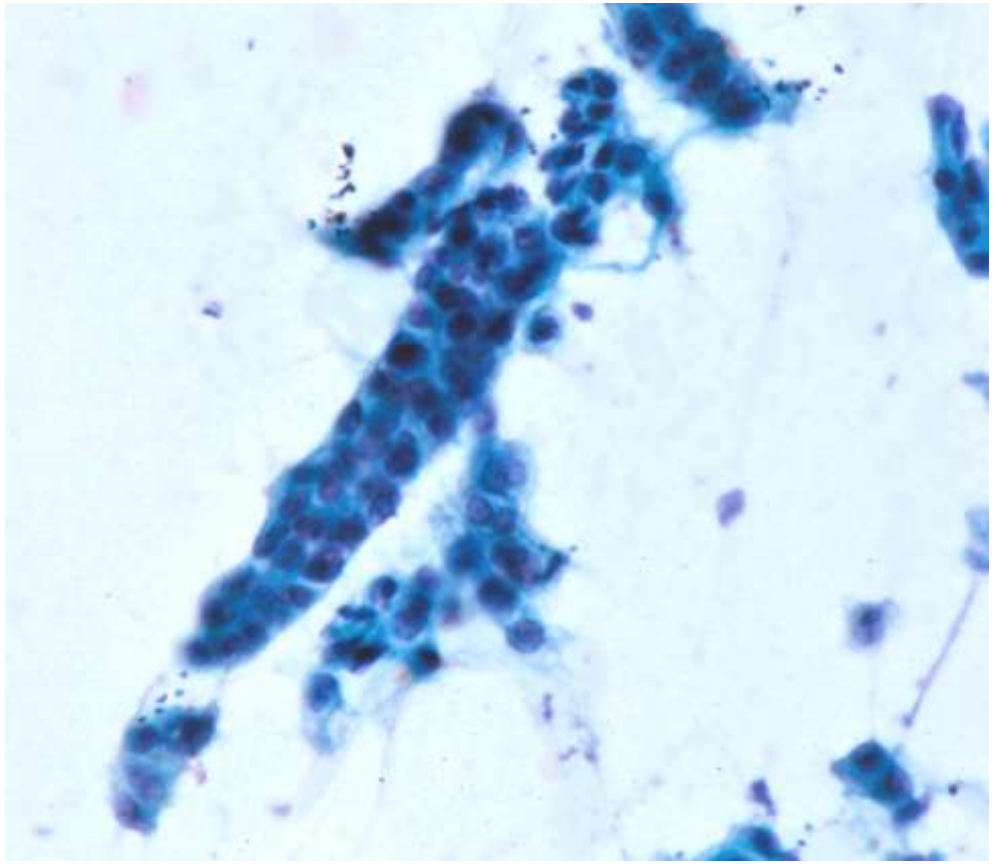


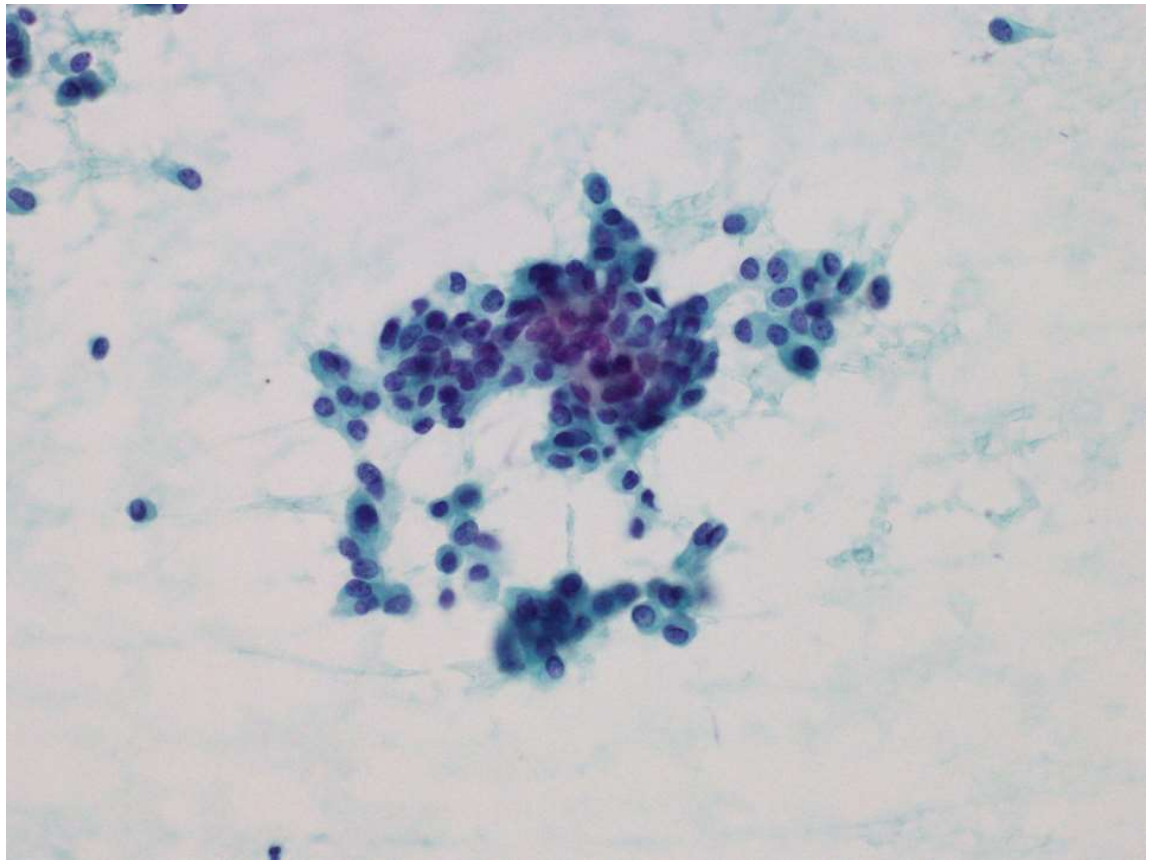
| 乳頭腺管癌 | | SPC |
|---|---|---|
| 増大 | N/C比 | 低い（核偏在） |
| あり | 核異型 | 軽度で均一 |
| あり | 核形不整 | なし |



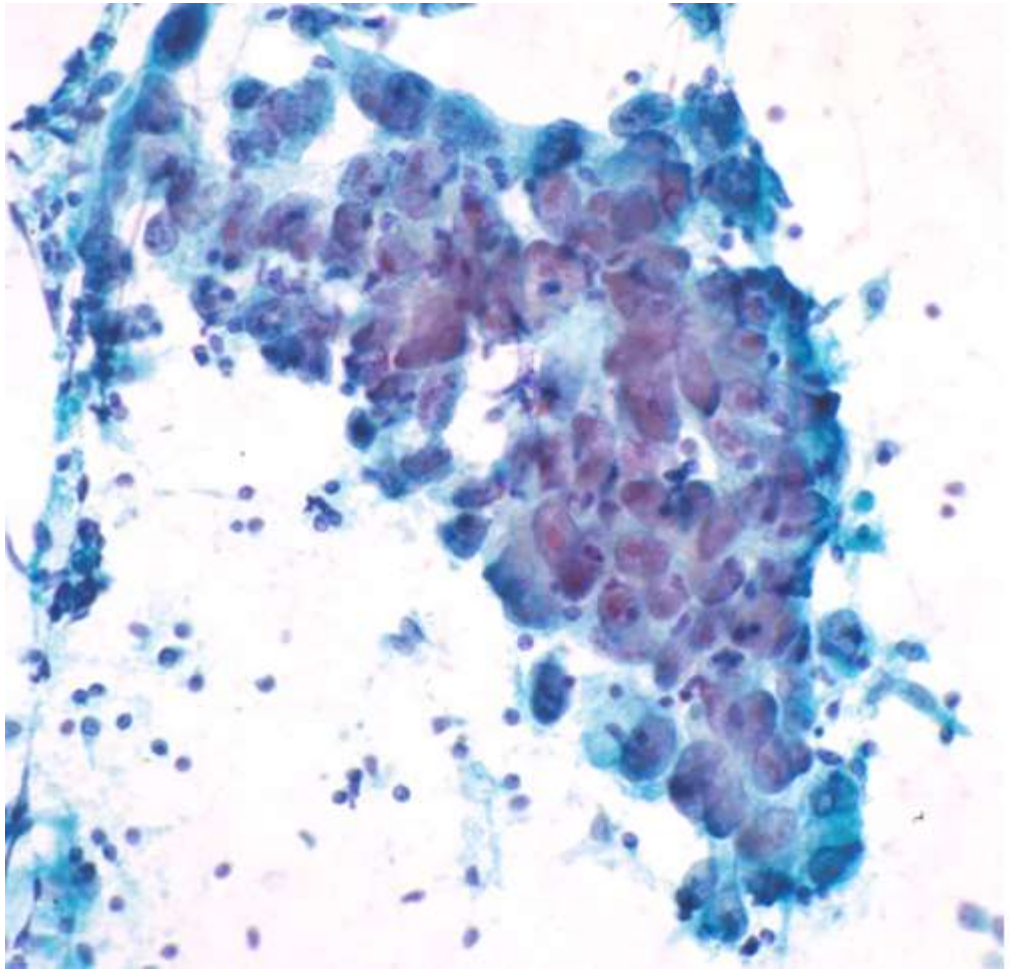


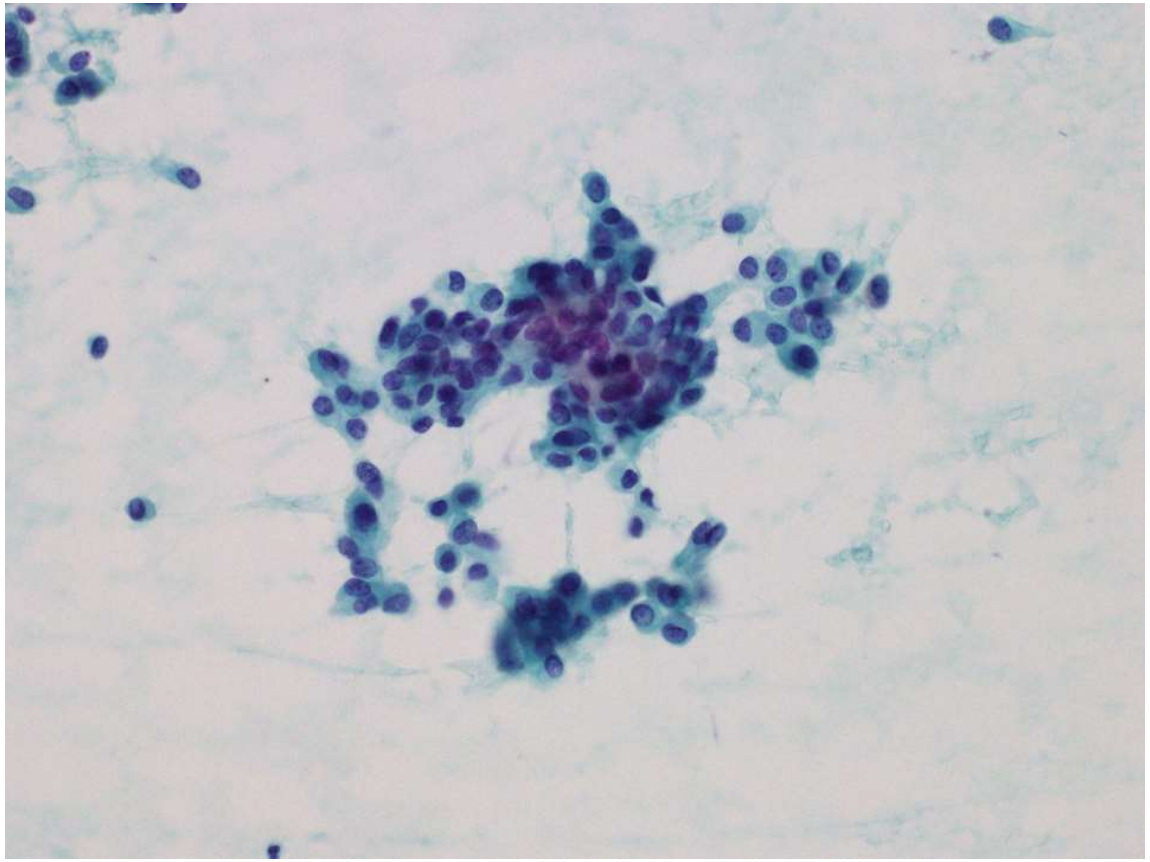
| 充実腺管癌 | | SPC |
|---|---|---|
| 高度で多様性がある | 核異型 | 軽度で均一 |
| あり | 核形不整 | なし |



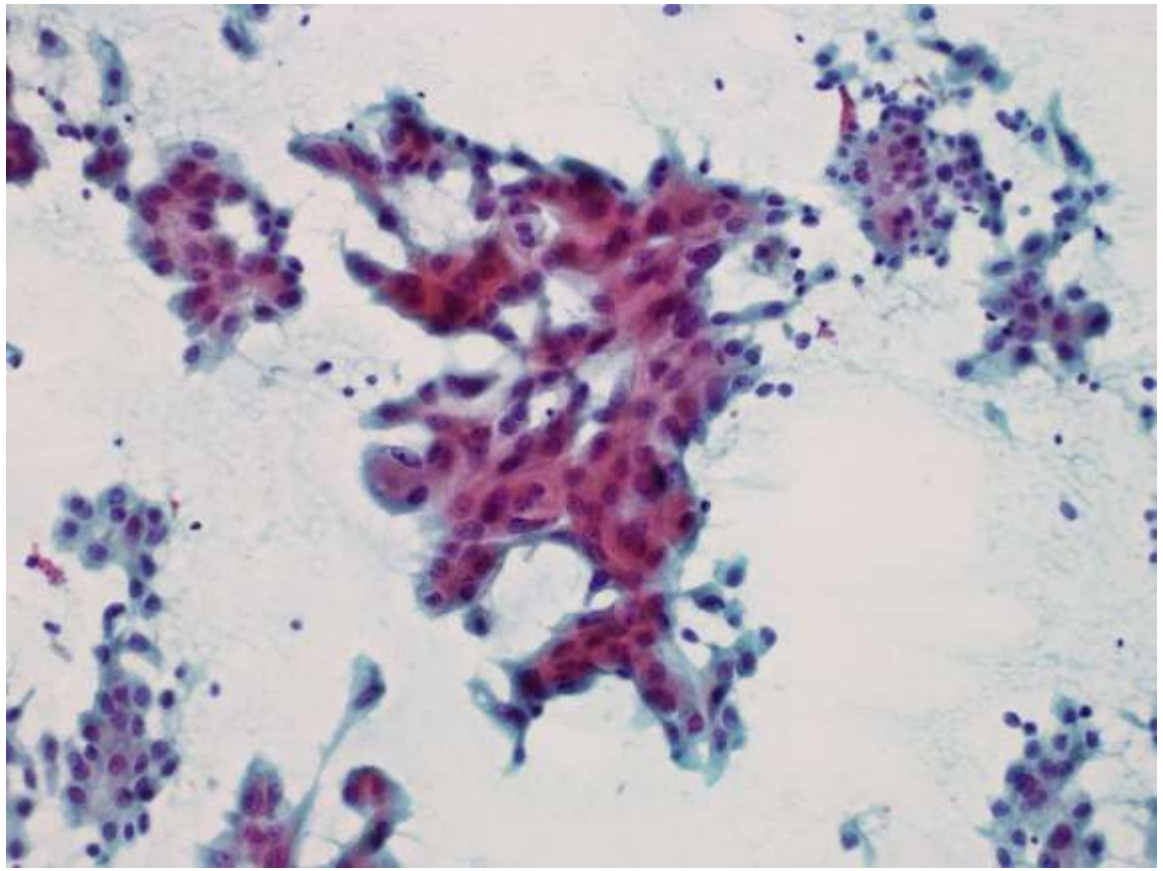


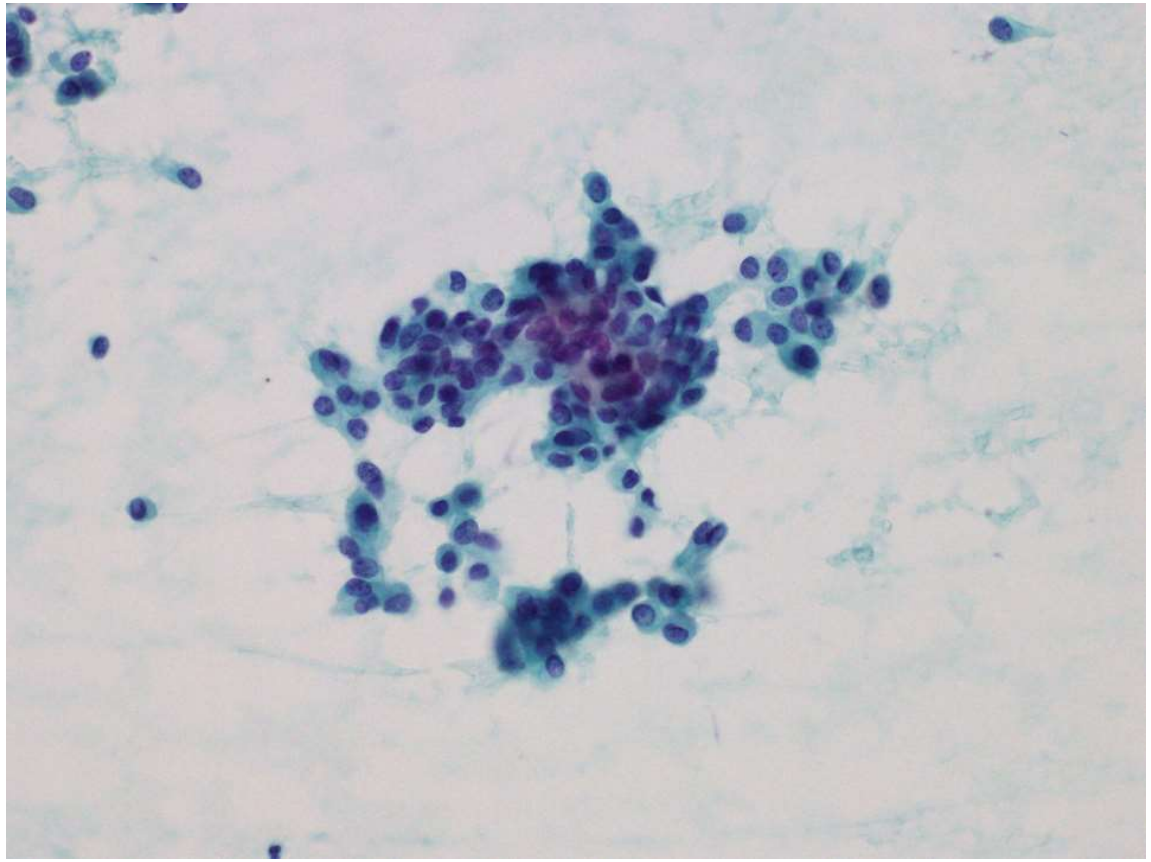
| 硬癌 | | SPC |
|---|---|---|
| 線状，クサビ状配列 | 細胞配列 | 結合性の緩いシート状<br>不規則重積 |
| あり | ICL | まれ |
| あり | 核異型 | 軽度で均一 |





| 髄様癌 | | SPC |
|---|---|---|
| 強い | 核異型 | 軽度で均一 |
| 細顆粒状～泡沫状 | 細胞質 | 細顆粒状～レース状 |





| アポクリン癌 | | SPC |
|---|---|---|
| 大型核<br>明瞭な核小体 | 核異型 | 軽度で均一 |
| 粗大顆粒状 | クロマチン | 細顆粒状 |
| クサビ状，乳頭状，充実性重積配列など | 細胞配列 | 結合性の緩いシート状<br>不規則重積 |

# 最後に…

Solid papillary carcinomaは細胞異型が弱く、時として良悪性の判断も含め判定に苦慮することがあるので、今回の経験も念頭に置いて画像診断上，病理診断上鑑別していく必要があると思われる。